

小国高校同窓会報

発行所

山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地

小国高等学校内
電話(62)2054

小国高等学校同窓会
事務局



県社山から望む町中心部

創立50周年に向けご支援を

会長 仁科光悦

昭和二十三年、小国高校が定時制として創立してから間もなく五十年を迎えるという。

先輩たちの話しによれば、当初は小国小学校を間借りしての仮校舎で、数年間勉強をしたそうである。

それから半世紀近くも過ぎたわけですが、校舎はもとよりいろんな設備や内容において一変した感じを受ける。

高校時代は、一寸の休み時間を利用して、何度も県社山に登ったことのある人が多かったと思いますが、そこから眺める町の姿も大きく変わった。

よく見ると、懐かしい我が母校小国高校も、将来を宿望するかのよう大きくみえる。

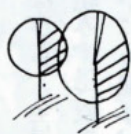
これまで、同窓会員も大台の五千名を越え、全国津々

浦々でそれぞれの職場において一生懸命がんばっておられるようです。

なかには退職をされ、第二の人生を楽しく歩んでおられる方もいることでしょう。

同じ学び舎を共にした者同志が、お互いに助け合い協力し合って生きていくことは勿論のこと、母校の発展のためにもできる限りの支援をしていく同窓会に育てていかなければならないと思う。

平成一〇年には、創立五十周年記念事業が計画されております。同窓会としても最大限の協力をして参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。





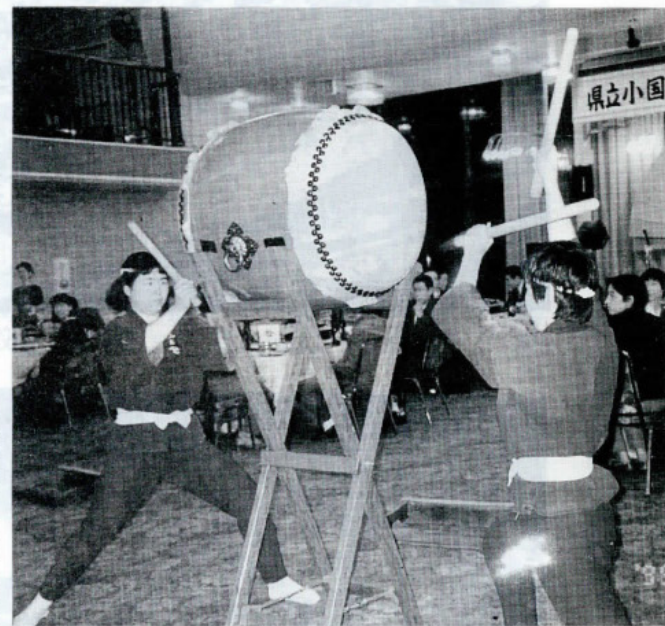
決意を述べる仁科会長

平成7年度同総会総会 盛大に開催される

夜の開催に好評

平成七年六月三日(金)午後六時、松風館において、小国高校同窓会総会が開催されました。ご多忙中にもかかわらず大勢の方々が出席して下さい、また学校側からも校長先生をはじめ十名の先生方が出席して下さいました。

従来、土曜日の午後後に設定していた総会を、より多くの方の出席をいただくためにも、いつの時期の何時



鼓友塾の皆さんによる和太鼓の演奏

貴重な意見

八年度に反映

総会は、六年度の会務報告、七年度の事業、予算、年会費の徴収について等、活発に協議していただきました。貴重なご意見は八年

に行ったら良いのかと思われ、錯誤しながら、今年度は平日の夜に行ってみました。人数的には、昼も夜もあまり変わりませんでした。総会後の懇親会は夜の方が落ち着いて席に着いている事ができ、座も盛り上がるという事で好評でした。

和太鼓による アトラクション

懇親会は、鼓友塾のメンバーによる和太鼓のアトラクションではじまり、大いに盛り上げていただきました。ご出席の皆さんは卒業年度を越え、和気あいあいとした雰囲気の中で話しがはずみ、カラオケなどの余興があったりと時間はまたたく間に過ぎ、同窓生の絆の

八年度の総会に 多数の出席を

強さを感じながら、全員でスクラムを組み、母校の校歌を声高らかに斉唱し、おひらきとなりました。

八年度の総会も、昨年度と同じ六月に開催する予定です。今後、具体的な取り組み内容等について、役員会で検討していきたいと思っています。今年以上に大勢の会員のご出席を心からお願いします。



支部活動の紹介

同窓会員も、5,000名を越えたことから、各地域毎に支部を結成することにした。まず、町内に11支部が結成されたので、その活動状況を紹介する。



同窓会の事業に積極的に参加

北東部東支部長 舟山 隆司

例年がない寒さの厳しい

今日この頃です。小国高校

同窓生の皆さん、お元気に

お過しですか。同窓会も支

部制が発足してから、早、

五年目を迎えておりますが

ここで北東部東支部の活動

状況について若干御報告い

たします。最初に支部結成

に到るまでの経過について

述べてみたいと思います。

支部結成にあたっては、支

部制の高校を推進する本部

の志向に従って、支部制度

に賛成し早期実現に向け、

支部の考えを一つにして対

応してきました。平成三年

いよいよ支部制の施行とな

り、支部では、平成三年十

二月二十日、於て北公民館

にて、結成世話人会を開催

支部結成の目的・会員の把

握、総会の準備、規約の作

成、役員の選出等について

話し合いました。翌平成四

年二月八日、支部結成総会

を開催し、規約・役員が承

認され、名実共に支部が結

成されました。

本部の事業計画には積極

的に参加してきました。会

議への出席、同窓会入会式、

総会、懇親会への参加など。

昨今の支部活動については、

会報の配布、会費の徴収等

その都度会議を行い、同窓

会事業に御理解して戴き、

支部活動への積極的支援を

賜っております。又、北東

部東地区に点在する、会員

の皆様には会費徴収に格別

の御理解、御協力戴き厚く

感謝申し上げます。

今後の方針ですが、支部

体制の益々の充実を図り、

計画される事業には、積極

的に参加し、小国高校同窓

会の発展に寄与していく所

存であります。



カラオケで楽しむ

北東部支部長 佐藤 秀 吾

小国町内を地域ごとに分

割して支部を作ろう、と同

窓会の評議員会に提案され

平成四年六月以後に北東部

支部づくりを始めました。

当初は支部役員の選任だ

けに終り、支部の同窓生の

実態はつかめない状態でし

たが、翌年に高校同窓会事

務局の同窓会名簿より区分

けた北東部地区の同窓生

名により、同窓生の居住の

確認を行なったあとに支部

全体の同窓生名簿を作成し

ました。

最初は同窓生を卒業年度

別に名簿を作っていました

が、会報の配布や連絡など

に便利な集落別、世帯別に

区分けして名簿を作り直し

しております。支部の同窓生

は一九〇名以上いますが、

一世帯に四名いるところも

あり二名の世帯が多いのも

地元という地域性のため

しょう。北東部地区は幸町

一、二、西、増岡、横道、

宮の台、大宮、下林、団子

山の九つの集落で作られて

います。この集落ごとに地

区役員を一名以上選任し、

支部の運営は支部役員と地

区役員の二十一名で行ない、

実質的な活動は平成六年度

より行なっています。

会議などは地区の公民館

を主に利用していますが、

親睦をかねての会議は地区

内にあるカラオケハウスを

利用し、会議終了後は酒を

酌み交わしながらカラオケ

を楽しんでいます。

支部を結成するまでに紆

余曲折がありました。七

年度よりは支部結成の成果

が少しづつ現われてきてい

ます。今後は支部活動を会

議だけでなく、レクリエー

ション的なものと計画し

ております。

シリーズ

恩師の回想

今野幸男先生



昭和30年から
昭和39年まで

大学を卒業して、最初の赴任校だったから、なにもかも新鮮にインプリントされているのでしよう、夢のなかでさえ、古い木造の校舎がその舞台なのです。当時の「経済白書」は「戦後は終わった」と書き、石原慎太郎の「太陽の季節」の芥川受賞で騒然とした論争があった。まもなく大江健三郎が「死者の奢り」で登場、開高健の「裸の王様」と芥川賞を競い大江は落選。それ以来、憑かれたように大江健三郎にのめりこんでいく。三〇余年後に、ノーベル文学賞を貰うとは知るべくもなしに。

当時の高校生は、同年令の四・五〇%が高校生で、いまほぼ一〇〇%近い状況とは全く様変わりしています。が、本質的には大きな違いはないと思っています。いつの時代でも、高校生に要求されるのは知的努力、感性、想像力——この三つの要素を高々とかかげることだと思っています。

ヨスタイン・ゴルデルの「ソフィーの世界」は、読書への誘いとして、国際化社会のなかでのアイデンティティを確かなものにするために必読の書かもしれない。

「記憶する力」は正しい歴史認識と、「想像力」をふくらますことによって、未来へと働きかけることができると思っています。



総務部長
遠藤 信義
(34年度卒)

資格の取得に全力

小国高校を卒業して、早や三十七年が経ちました。昨年、同窓会名簿を購入してみた、そのどっしりとした重みに「歴史の深さ」を感じました。

東京近辺にいる同級生でこの五年間に三回同級会を



営林署長
丹 四郎
(42年度卒)

林科の廃止寂しい

高校卒業後、秋田営林局、青森営林局、林野庁などを転々とし、十回目の転勤で今は秋田県内の営林署に勤めています。国有林には沢山の先輩達が勤めています。が、林業科の廃止で後輩が続かずちょっと寂しい状況

卒業生からのたより

開催しました。いつも二〇名前後集まり盛大です。

「・・・べ」「・・・んだんだ」と小国弁で昔の教室が移動したような雰囲気、何時間でも話題が絶えません。

「同窓会名簿」のおかげで、次回からはもっと積極的に関東地区にいる同窓生に呼び掛ける予定です。

私事ですが、いま東京の中堅建設会社の総務部長を拝命していますが、東京都

行政書士会にも登録、二足のわらじを履いております。

資格の時代ということで、行政書士や宅地建物取引主任、日商簿記二級を若い時に取得していたのが評価され本当にラッキーでした。

五〇才の時一念発起し、専門外の一級土木施工管理技士に挑戦五十三才で合格、気を良くし、昨年五十四才で二級建築施工管理技士に合格、今年は五十五才で一級に挑む計画です。

りました。

音楽音痴ながらプラスバンド部に入り一週間で退部したこと、3年の夏第2回東北林業高校生徒交歓会を開催したこと、羽越水害、古典の美人先生にあこがれて夢中で暗唱した平家物語：様々な思い出が去来します。

同窓会を運営されてきた諸先輩への感謝と、母校の繁栄を胸に。

"同級会、..... 私たちも おこないました



22年振りの再会

47年度卒 山口 節子

去る平成七年度八月十四日、小国高校四十七年度卒業生、第一回同期会を来賓の先生方六人の御出席を戴き、参加人数七十名のもと松風館にて、盛大に開催されました。「もうすぐ四十歳」そんな年齢を実感した時「青年だったあの頃の仲間に逢いたい。」それが事の始まりでした。

卒業後二十二年。それを期に一同に集まった仲間達。二十二年振りの再会で、共に飲み、語り、笑い、今までの空白は一気に埋まり、昔話に花が咲きました。多感な高校時代を三年間共に過した絆は故郷小国への望郷の念と相交じりながら、言葉では言い表わす事の出来ない程の感動でした。開催するにあたり、実行委員も試行錯誤の連続で不安も沢山ありましたが「あの時の仲間会える」という気持ちとその苦勞を忘れさせるのに充分でした。

二次会、三次会、そして宿泊場所を徹して話し合った友。名残りつきなく、数年後の再会を固く誓いながら、大盛況のうちに会を閉会する事が出来ました。

「一俵10万円の米づくり」の話

32年度卒 米 野 貞 雄

還暦を目前にした私たちのクラス会は、2年ぶりに昨年の八月開催した。

勤務先によっては、停年、退職、引退などと第2の人生への節目の年令でもある。恩師を囲んで久々に語り合った。酔うほどに青春を懐古し、そして今を語り合った。

そんな中で、恩師中川實先生は、「米1俵(60kg)10万で売れる百姓になれ。そのために、よき友、よき仲間を持て。」とおっしゃった。よく聞いてみると、日本一おいしいコシヒカリを、有機肥料をふんだん入れた土地で、農薬を極端に少なくして栽培し、その米をおにぎりにして売れと言うのである。東京では、このおにぎり1こ2百円でも飛ぶように売れると言っていた。いま本物の味をもつ食べものに飢えている世の中である。本物の味を仲間と共に売り込むことが必要な時であると結んだ。

地域と共に歩み、地域に溶けこんでいる中川先生の生き方に、強い感銘を受けあやかりたいと思っている。



平成8年度総会のお知らせ

- と き H 8 . 6 . 21(金) 6:00～
- と ころ 小国温泉 松風館
- 会 費 3,000円
- 申 込 事務局 TEL (0238)62-2054

募 集

※ 同窓会報の「名前」を募集しています。

※ 「卒業生からのたより」「同級会の開催」等、会員の皆さんの原稿を募集しています。

応募先 同窓会事務局

TEL (0238)

六二二二〇五四

FAX (0238)

六二二二〇五五

切り 八・一〇・三十一

年会費の納入状況

「年会費の納入ありがとうございます。」

平成5年度総会において、同窓会費を年会費制に移行することを承認されて2年目、今年度も多くの方々から納入していただきましてありがとうございます。

★年会費納入状況 (H8・1・31現在)

◎町内(支部単位での納入)

・小坂町支部	174,000円
・北東部支部	162,000円
・沖庭支部	71,000円
・北東部東支部	86,000円
・町岩西支部	85,000円
合計	578,000円

◎町外(郵便振込)

353名	332,720円
合計	910,720円

同窓会が活発に活動できるよう有効に使わせていただきます。尚納入受付は随時行っていますので、まだ未納の方々もよろしくお願いします。

創立五十周年記念事業 実行委員会発足する

教頭 大道寺 邦彦

本校は平成十年をもって創立五十周年を迎えます。五十周年は、創立と百周年と並ぶ一大節目です。従って、その意義にも、記念事業にも画期的なものがあると思います。

このことを踏まえて、早速関係者で協議を重ね、創立五十周年記念事業実行委員会をつくることで合意しました。正式には平成八年を待って発足することになります。会員の皆様には、今後何かれとなくお世話を頂くことになると思います。が、よろしく願っています。

平成6年度 同窓会会計決算書

収入部

科目	予算現額	収入済額	増減	摘要
会費	1,500,000	1,134,320	365,680	1,160名
入会費	350,000	350,000	0	@5,000×70名
繰越金	295,359	295,359	0	前年度繰越金
雑収入	1,641	866	775	預金利子等
合計	2,147,000	1,780,545	366,455	

支出の部

科目	予算現額	収入済額	増減	摘要
需要費	50,000	33,210	16,790	用紙、卒業アルバム等
会議費	150,000	123,054	26,946	各種役員会諸経費等
通信費	200,000	176,937	23,063	ハガキ、切手、電話
印刷費	200,000	161,990	38,010	会報、その他
使用料貸借料	10,000	0	10,000	
事務室維持費	50,000	0	50,000	同窓会事務室維持諸経費
慶弔費	30,000	27,000	3,000	弔電、餞別
教育助成費	80,000	27,100	52,900	卒業記念品、講演謝礼等
支部助成	110,000	110,000	0	町内地区11支部
特別事業基金	1,100,000	700,000	400,000	
事務費	50,000	50,000	0	会報発送アルバイト代等
予備費	117,000	63,630	53,370	
合計	2,147,000	1,472,921	674,079	

平成7年度 同窓会会計予算書

収入の部

科目	本年度予算額	摘要
会費	1,500,000	年会費@1,000円×1,500名
入会費	320,000	卒業生入会金@5,000円×64名
繰越金	307,624	前年度繰越金
雑収入	1,376	預金利子等
合計	2,129,000	

支出の部

科目	本年度予算額	摘要
需要費	50,000	用紙、卒業アルバム等
会議費	150,000	各種役員会諸経費
通信費	200,000	ハガキ、切手、会報発送等
印刷費	200,000	会報、その他
使用料貸借料	10,000	
事務室維持費	50,000	同窓会事務室維持諸経費
慶弔費	40,000	弔電、餞別
教育助成費	80,000	卒業記念品、講演謝礼等
支部助成	110,000	町内地区11支部
特別事業基金	1,000,000	
事務費	50,000	会報発送アルバイト代等
予備費	189,000	
合計	2,129,000	

高 小国高校

部活動の紹介



吹奏楽部

顧問 齋藤 美喜

夏の置賜地区吹奏楽大会、昨年、13名でFクラス出場。今年度、17名Cクラス出場。Cクラス出場は、久しぶりのことで、それまで目立っていたいなかった我が吹奏楽部は、「水を得た魚」のように、活気に満ちあふれていた。

部員のほとんどが経験者であるが、初心者も、一生懸命練習に取り組んでいた。冬にはアンサンブル大会に出場。学校では主に、文化祭、壮行式、野球応援で演奏をしている。

今は、最も人数の多かった3年生が引退し、部員数7名。吹奏楽の曲を演奏するには、人数が少なすぎる。そこで部活動では、ソロとして個人個人練習している。演奏するのは自分一人。いかにして、曲想を作り上げ、演奏するか。音楽性が高められていくのではないだろうか・・・。

大会出場。上位入賞を目指す前に、演奏できるという素晴らしいさを知り、楽しんで演奏する。これが一番なのではないかと私は思う。

吹奏楽部が活動しているというのを聞き、OBの方が練習を見に来てくださった。音楽を通じて人との交流もできた。吹奏楽未経験者の私は、顧問をしていて、部員、父兄の方々、OBの方々がなによりも心の支えになった。

吹奏楽部は、「温かさ」のある部である。

に出場。学校では主に、文化祭、壮行式、野球応援で演奏をしている。

今は、最も人数の多かった3年生が引退し、部員数7名。吹奏楽の曲を演奏するには、人数が少なすぎる。そこで部活動では、ソロとして個人個人練習している。演奏するのは自分一人。いかにして、曲想を作り上げ、演奏するか。音楽性が高められていくのではないだろうか・・・。

大会出場。上位入賞を目指す前に、演奏できるという素晴らしいさを知り、楽しんで演奏する。これが一番なのではないかと私は思う。

吹奏楽部が活動しているというのを聞き、OBの方が練習を見に来てくださった。音楽を通じて人との交流もできた。吹奏楽未経験者の私は、顧問をしていて、部員、父兄の方々、OBの方々がなによりも心の支えになった。

吹奏楽部は、「温かさ」のある部である。

卓球部

顧問 田近 裕子

小国高校で運動部に入りたい女子は、陸上、ソフトテニス、バレー、そして卓球から選ぶこととなります。日本では割と愛好者の多い卓球も、本校では経験者の入部は少なく、現在の、二年生部員九名中八名は高校より始めた初心者です。かく言う私も遊びとしての卓球（ピンポン？）の経験はあるものの全くの素人。三年生に教えられるがらのスタートでした。

さて今年度、一年分の体文及び生徒会の全予算をつぎ込んで卓球マシン『ロボポン2000』を購入しました。初心者が打ち方を覚えるのに有効だと聞いたため、実際、速度やテンポが一定で多球練習にはもってこいの代物です。生徒の吸収力も素晴らしくみるみるフォームが改善されていき、その成果か、十月に行

われた山形県卓球選手権の地区予選会において七名が県大会への切符を手にした。生徒にとっては何よりの励みとなり、また良い経験となりました。

まだまだ地区強豪との力の差は大きく課題も山積みですが、一球でも多く満足のいく球が打ち返せるよう日々の練習を充実させるとともに、卓球を楽しむ心を育てていきたいと思っています。



学校の近況報告

人口年々減少 母校にも大きな影響

昨年十月現在の小国町の

人口は、世帯数三、二七七世帯、人口一〇、九七七人で、年々減少傾向にあり、今後この傾向は続くことが予想される。このことは、母校小国高校にも大きな影響を与えている。

昭和四〇年、全校生四〇名を越え、ひと学年一五〇名程の在籍があったのに、平成七年度は全学年で一九五名となり、約半分に減ってしまった。

平成七年度現在、募集定員三学級一二三名から、八年度からは、二学級八〇名に縮小される事が新聞でも報道された。この様な事から、部活動の統廃合や廃部が続く、後輩達は希望する部での活動ができなくなっているのは可愛そうでもある。また、多くの同窓生は、活発な部活動で活躍した頃を思い出すと、寂しい気持ち

ちになる事であろう。

更に、昭和四〇年代頃のJ Rバスは、北部、南部線ともに定員オーバーとなり、急遽の臨時バスが出て、通勤、通学されていた様に思う。やはり人口減少や車社会の現代は、バスの乗車も少なく、平成七年遂にJ Rバスが廃止となってしまった。これに代わり、町営バスが運行される様になった

が、朝夕の通学バスの時間設定がなく不便となった。南部の生徒が飯豊町の親戚に下宿して、飯豊町から小国高校に汽車で通学している事を聞き、まさに大変な事態ではないだろうか。母校は小規模校になって、後輩諸君は、胸を張って、堂々と大きく羽撃いてほしいものである。そのためにも同窓生として、いや、町民の一人として小国高校を考え、これからの小国町を考える事が大切であると痛感した。



少ない人数でも活気づく生徒総会

平成7年度 小国高校進路状況

今年度の就職と進学は、およそ6対4で、前年度に比較すると進学の率が高くなりました。

就職に関しては、景気低迷の影響から、年度当初、状況が大変厳しくなるのではないかと懸念されました。しかし、結果としては比較的順調に内定を獲得したのではないかと思います。

進学に関しては、大学の2名、高専の2名、その他専門学校の17名が、一般受験を待つまでもなく早々と推薦入試で合格を達成しました。進学指導にええたり、放課後の講習後も自主的に勉強していた成果だと思えます。

内 訳		男	女	計
進 学	4 年 制 大 学	1	1	2
	短 期 大 学	0	0	0
	看 護 学 校 等	0	2	2
	公 共 職 業 訓 練 校	0	2	2
	そ の 他 専 門 学 校	7	10	17
%	小 計	8	15	23
就 職	県 内 地 元 (小国町・西置賜)	15	11	26
	県 内 地 元 外 県 内	2	2	4
	県 外	6	1	7
	公 務 員	0	0	0
	自 営 ・ 家 事 従 事	0	0	0
	(就 職 進 学)	0	0	0
	就 職 地 未 定	0	0	0
%	小 計	23	14	37
進 合	進 路 未 定	0	0	4
	合 計	31	33	64

編集後記

昨年は阪神大震災、オウム真理教事件など、国内は大波乱の一年でした。今年は丙子歳、なんとか穏やかな一年であってほしいと願いつつ新年を迎えましたが、二月に入ってから、政治面では住専問題の浮上、小国町では近年にない大雪に見舞われ、米坂線は四日間の不通となり、国道一一三号線は猛吹雪のため二度も交通止めとなったりして、かつて豪雪地小国の名に相応しい二米の積雪の中で、町民は連日雪との闘いとなった。こんな豪雪の中で編集会議をもちつつ会報第七号を皆様にお届けすることに成りました。どうぞ会員の方々におかれましても、健康に留意され、ご活躍下さいますようお願いいたします。

編集委員

神保たえ子

渡辺英雄

米野義一

駒沢堅一

(渡辺 記)